

一般社団法人北海道開発技術センター（dec）の沿革

北海道開発技術センターは、佐々木晴美氏の構想のもと佐藤幸男氏、村田均氏、渡辺末治氏ら、考えを同じくする道内各界の有志が発起人となり、寒地開発技術の進歩発展と、開発事業等の諸問題について、政策の提言、計画・調査および研究を行うことを目的として、1982年9月に任意団体として設立いたしました。設立後、1983年1月には、寒冷地域の開発・発展に関する情報交換と議論の場として、米国、カナダ、フィンランド、スウェーデン、ノルウェイ、中国、そして日本の7カ国による「北方圏開発技術交流会議」を開催する等、活発な活動を展開し、1983年4月には任意団体を解散、「社団法人北海道開発技術センター」として札幌市中央区に事務所を設置して本格的に事業をスタートいたしました。

北方圏開発技術交流会議は、その後「第1回寒地開発に関する国際シンポジウム（ISCORD）」と位置づけられ、ほぼ3年ごとに2023年までに世界各地で13回開催されているほか、1985年からは国内版として「寒地技術シンポジウム」を毎年開催し、2023年で第39回を数えています。発表された5000件を超える報告や論文はデータベース化され、国内外の寒地開発技術の研究者や技術者、実務者に利用されております。

また、開発事業等においては第5期北海道総合開発計画（1988年）で提唱された“快適な冬の生活環境づくり「ふゆトピア」”の推進、北海道の将来ビジョンや北海道の交通体系・道路整備、シビックデザインや歴史的景観に配慮した街づくり等に関する調査研究、提言活動を行い、実績を積み重ねており、寒地開発技術、移動や交通と地域づくり等を専門とする地方シンクタンクとして、道内外からも広く認知される存在になっております。

2011年5月からは、公益法人制度改革に伴い「一般社団法人北海道開発技術センター」として新たな出発をしたのを機に、2013年1月には青森県八戸市に東北事務所を設置し、活動エリアを北海道から東北地方にも広げているほか、独立行政法人国際協力機構（JICA）と連携し、北海道で培った寒地開発技術を使って途上国への技術移転や人材育成の方面で、国際的にも貢献しております。

現在、寒地開発技術はもとより、シーニックバイウェイ北海道の推進、安全で快適な広域観光周遊ルートの形成、野生生物と交通問題、地球環境やエネルギー問題、公共交通の再構築やモビリティマネジメントの推進、学校教育と連携した道（みち）学習や交通環境学習等、時代とともに変化し、多様化する地域課題に取り組みの幅を広げております。さらに、近年、頻発する自然災害や、深刻化している少子高齢化、人口減少に起因する複雑で解決の難しい国家的な課題にも、蓄積した情報や幅広い人的なネットワークを活用した実践的な研究活動を展開しております。

今後とも、北海道開発技術センターは、このような社会の変化を見据え、得意分野のノウハウや人材を生かして、北海道をはじめとした寒冷地の諸課題に対して、的確な調査・研究と政策提言を行い、地域社会の発展と広く国内外の寒冷地域に貢献してまいります。

歴代会長・副会長・理事長等一覧

年度		会長	副会長		理事長	備考
S57	1982				佐藤 幸男	任意団体設立
58	1983					社団法人発足
59	1984	堂垣内尚弘	佐藤 幸男	菅原 照雄	(専務理事) 佐々木晴美	
60	1985					
61	1986					
62	1987					
63	1988					
H01	1989					
02	1990					
03	1991					
04	1992	佐藤 幸男	土岐 祥介	佐々木晴美		
05	1993					
06	1994					
07	1995					
08	1996					
09	1997					
10	1998	五十嵐日出夫	渡辺 健	佐藤 馨一	熊谷 勝弘	
11	1999					
12	2000				佐々木晴美	
13	2001					
14	2002	(会長代行) 渡辺 健				
15	2003					
16	2004				本多 満	
17	2005	佐藤 馨一	加賀屋誠一			
18	2006					
19	2007					
20	2008					
21	2009					
22	2010					
23	2011					
24	2012					
25	2013				高橋 了 能登 繁幸	
26	2014					
27	2015	本多 満	田村 亨		山口登美男	
28	2016					
29	2017					
30	2018	田村 亨	高野 伸栄			
R01	2019					
2	2020	高野 伸栄	高橋 清		倉内 公嘉	
3	2021					
4	2022					
5	2023					
6	2024					